

館報

No.36

1987. 6.

自由意志の問題
—カントと
N.ハルトマンを中心に—
ポストン
JOISの利用について
文部省大型コレクション
『労働関係等学位論文集』
夏季休業期間中の
利用について（お知らせ）

自由意志の問題

—— カントとN.ハルトマンを中心に ——

熊谷正憲

私の友人は哲学を専攻しようとする際に、法学を勧める父親の強い反対にあった。彼は迷ったが、自分の意志を変えなかった。そこに彼の自由な意志を認めることが出来よう。だが、人間には本当に自由な意志があるか、存在するとしたらその根拠はどこにあるのだろうか。

自由の問題は既に古代ギリシアにおいて論じられていた。支配者批判の自由を含む政治的自由がアテナイで確立されていたし、ソクラテス等に見られるような内面的精神的な自由まで主張されていた。しかし、人間の自由が意志の自由として捉え直され、否定的な形にせよ問題になったのはキリスト教神学においてであった。創造者として全知全能である神の支配下では意志の自由は否定されるか従属的地位に置かれるという見解が成り立つからである。アウグスティヌス（354—430）は意志の自由に神の恩恵を先行させているし、ルター（1483—1546）は自由意志を神のみに値するものとし、カルヴァン（1509—1564）

は自由意志を神の世界支配に反するものと見なした。意志の自由を否定する強力な動きは17世紀以降の科学革命の流れの中で科学的決定論としても起こってきた。それによると人間は自然界の一員として自然物と同じく因果律の支配下にあり、したがってその行為はことごとく必然的になるとされる。『人間機械論』（1748、ラ・メトリ著）も現れる。

意志の自由に対するキリスト教ならびに自然科学からの脅威に対して画期的な解決の試みを展開したのはカント（1724—1804）であった。彼の『純粹理性批判』によると、人間の感性を通して与えられるこの世界（現象界）は、人間が本来持っている先天的形式で構成される自然法則が支配しているから、必然的である。しかし、感性を越えた無制約的全体的なもの、換言すれば、現象界とは異なる叡知界（可想界）に属する主観的全体としての魂、客観的全体としての世界、一切のものは最高の制約としての神は認識することが出来ずただ理性が論理的に考える（想定す

る) ことが出来るだけの単なる理念でしかない。したがって、神は自然法則のように人間の意志を規定していると主張することは出来ない。むしろ人間は出来事を「自ら始める」自由を持っており、それは、人間がこの現象界と同時に叡知界にも属していると考えられるからである。叡知界の想定によって意志の自由は自然必然性と両立するのである。

単に理論的想定にすぎない叡知界をカントは『道徳形而上学の基礎付け』や『実践理性批判』において実践の面から要請する。或る行為が善であるためには、その行為を決定する意志が自己愛の原理からではなくて、理性による普遍的な法則の表象並びにその法則への尊敬によって規定されていなければならない。それは自らが従う道徳法則を立法するときつまり意志の自律において、可能となる。意志の自律のためには意志は自由でなければならない。その自由は人間が感性的存在としては現象界の一員でありながらも、理性的存在としては叡知界に属しているからこそ生じる。道徳法則の存在根拠として自由が、徳の完成のために魂の不滅が、徳と幸福との一致のために神の存在が要請されるのである。

カント以後の哲学者たちは彼の自由論と真剣に対決することによって、自らの自由論を確立しようとしてきた。N.ハルトマン(1882-1950)もそういう哲学者の一人である。ハルトマンの『倫理学』等によると、カントでは道徳法則への奴隷化が生じ、神の存在が結果として承認されるから、自由意志論は徹底さを欠いている。道徳法則は絶対的普遍的な倫理的価値として理念的に存在し、私達を先天的価値感情において捕え、そこに「～すべし」という要求が現れてくる。価値から生じるこの要求への決断によって倫理的行為は目的的行為として遂行される。そこでなされる決断に意志の自由は見出され、価値への反

逆が可能であるところに悪への自由も存在する。それは人格の自己決定、責任、罪の意識といった現象に見受けられる。意志の自由が、決断のなされる人格の主観にあることは明白である。しかし、それがなぜ主観にあるのかということは、私達には解明できない「形而上学的な残余問題」である。叡知界の想定は現象に従う限り、許されないからである。

意志が、因果律の支配する自然的世界から自由であり、自然的世界に自らの自由を目的的行為において実現できるのは、ハルトマンによると、この自然世界は無機的、有機的、心的、精神的の4つの存在層から成立していて、目的論的決定を決定法則とする精神的存在がそれより低い3つの層に担われつつも、それらに対して自由を持っているからであり、それら3つの存在層の各決定法則(無機的存在層の決定法則が因果律である)が精神的存在の目的的行為の方向性に対して関心がないからである。因果律に基づく出来事は人格の目的的行為によってその方向が自由に変えられるのである。もし神の意志が世界を支配しているなら、それは目的論的支配となり、その方向を変更することが出来ないから、意志の自由に基づく行為は不可能になる。意志が自由であるためには、むしろ神の非存在が要請されなければならない。しかも信仰において神にすべてを委ねることは、自由を捨て、倫理的責任を放棄し、人間を低めることになる。人間には神への自由も罪への意志も認めることが出来る。ハルトマンは私達に、意志の自由に基づく倫理学が、神の絶対性・全能性を説く宗教かを迫っているように思われる。

自由意志の問題についてカント、ハルトマンを中心に「発展的に」見てきた。ハルトマンの見解にも納得できないとしたら、この問

題にどう決着をつければよいのか。クラントンが言う（『自由』1967）のように、決着のつかないものだからこそ、まさに哲学の問題になっているのかもしれない。だが、意志の自由が政治的社会的自由の源泉であり、科学

的創造の原動力である以上、その存在は常に私達一人ひとりにおいて確認され、その根拠への反省が深められなければならないであろう。（総合科学部教授 哲学）

ボ ス ト ン

吉 本 谷 博

昭和59年4月より昭和62年12月までの約2年半の間、アメリカ合衆国ボストンに留学する機会があったので、その間にいろいろな体験をし、見聞した事を紹介したい。

ボストンと言えば、周知のように小沢征爾氏が常任指揮者のボストンシンフォニーオーケストラ、西欧における日本美術の最大の宝庫であるボストン美術館など、わが国とも縁の深い町である。また、ボストン近郊にはカリフォルニア州と並んでコンピューターの関連企業が多く、日米半導体摩擦が問題になっているが、昨年日本より桜の苗木が寄贈され、将来町の中心を流れるチャールズ川の河畔にワシントンにあるような桜並木を作る計画があり、日本との交流も盛んである。スポーツファンにとっても、昨年優勝した野球の Boston Red Sox、バスケットボールの Boston Celtics、フットボールの New England Patriots と話題には事欠かない。

さて、私のいたハーバード大学医学部 (Harvard Medical School) は、いわゆるハーバード大学の Graduate School (日本の大学院) の1つであり、保健学部 (School of Public Health) と共に、チャールズ川の南に位置するボストン市にある。他の法学部 (Law School)、経営学部 (Business School)

や、Undergraduate (日本の大学に相当) のハーバードカレッジ、ラドクリフカレッジなどは対岸のケンブリッジ市にあり、約15,000人の学生が学んでいる。このキャンパス内に有名なハーバードヤードがあり、大学の周辺にはギフト、アンチック、ファッション用品店やレストランが多く、観光客、学生、若いカップルや家族連れでいつも賑わっている。また、ケンブリッジには、マサチューセッツ工科大学 (MIT) もあり、まさに学生の町である。話はもとに戻って、医学部はボストンの Longwood Medical Area と呼ばれる一画にあり、ここは医学部学生および全国各地から集まって来る医師の教育、研修を行っている関連病院や研究所のビルが立ち並び、先のハーバードスクエアとは全く趣きを異にする地域である。この中には、Brigham and Women 病院、Beth Israel 病院、小児病院、Dana-Farber 癌研究所、Joslin 糖尿病センターのある New England Deaconess 病院など、診療、研究で世界をリードしている機関が含まれている。

私が研修をしていたのは、医学部構内の Seeley G. Mudd Building と呼ばれるビルの5・6階にある免疫学教室で、Chairperson は K.F. Austen 教授である。彼は、ハーバード

大学医学部出身で、これまで一貫して免疫学の研究を続けて来ており、アメリカ免疫学会の会長も務めた事もある。研究室では、彼の語録がいろいろな形で残されており、その中でも“Anything other than actually doing the experiment is only wishful thinking” “Don't mow the lawn when you hear the grass grow”などに彼の研究に対する謙虚で熱心な姿勢が表われており、私個人としては好感をもった。その反面、個性の強い人格と自信をもっており、“Scientists are expendable, it's the data that counts”などはそれを端的に表現しており苦笑した。免疫学教室には他に、補体とその受容体の研究のD.Fearon、細胞免疫学のJ.David、リンホカインの研究のH.Remold、リウマチの遺伝学的研究のP.Schurの各教授がそれぞれの分野で活躍している。

Austen教授の研究室はいくつかのグループに分かれており、アラキドン酸代謝の研究のR.Lewis（私が属していた）、肥満細胞のプロテオグリカンの研究のR.Stevens、カリクレインの構造と機能に関する研究のJ.Spraggなどが、相互に意見を交換したり、協同で研究を進めたりしている。研究室に働く人の出入りは活発であり、私以外にもイギリス、フランス、ドイツからの留学を含めて約30人の研究者、約20人のテクニシャン（実験補助）、5人の秘書・事務員と総勢50～60人の大所帯であった。日本からの私にとって最も興味深かったのは、テクニシャンと呼ばれる人達で、その給与は研究費から支払われ、多くは一年間の契約である。この研究室では、全員といって良い程（多くの研究室でそうであるかもしれないが）大学（College）を卒業したばかりの若い人を雇っており、男女ほぼ同数であった。しかも、彼らのほとんどは将来医学部を志望する若者であった。彼らは例年9

月（新学期）頃に研究室に現われ、昼は実験の補助をして働き、夜は医学部応募のために必要なMCATと呼ばれる統一試験の準備をしていた。1年後に医学部からの合格通知を手にする者もいれば、2年、3年とかかって希望の大学（Medical SchoolまたはGraduate School）に入学して行く者と様々であった。彼らと話をして感心したのは、自分が志望する医学という分野に対して、目的意識をもっていることであった。ある州立大学の医学部に入学した人（韓国からの移住者）のように、将来卒業し、研修を終えた後に、脳神経系の生理学の研究をしたいというような具体的な目標をもっているものさえいた。また、最近の傾向として、大学卒業後1～2年間の研究機関での経験が、入学者選考の重要な因子であるという話も聞いた。実際に、ある人は、在学中にあるニューヨーク州の医学部に合格したが、免疫学の実験を経験するために、入学を一年間延期して研究室で働いていた。一方では、大学を卒業したが、すぐに自分の進むべき道を決定せず、1～2年間ゆっくりと考えるために研究室での生活を希望した若者にも会った。さらに羨ましく思ったのは、彼らの多くは9月の新学期が始まるまでの間、それまで働いて蓄えたお金で2～3ヶ月の海外旅行（多くはヨーロッパ）をし、見聞を広めるという事であった。このようなアメリカの医学部を目差す若者の側面を垣間見、大学の入学試験実施方法で試行錯誤している日本の現状との違いを思った。

春から夏にかけてのボストンは、長い冬が過ぎ、街頭の木々がいっせいに芽をふき、ピンクや白い花が咲き、それが芝生の緑とよく調和して、一年中で最も美しい季節です。一人でも多くの人がボストンを訪れる事を祈って筆を置きたい。

（医学部助手 生化学）

JOISの利用について

図書館ではオンライン文献情報検索システムとして、本館に1982年よりDIALOG（米国ロッキード社）を、蔵本分館に1978年よりJOIS（日本科学技術情報センター、以下JICSTという）、1982年よりDIALOGを導入しサービスを提供してきましたが、今年5月より本館においてもJOISの利用ができるようになりました。これらのサービスについては、かつてこの「館報」や「MLニュース」（蔵本分館報）等でとりあげたことがあります。本館でのJOIS導入にあたり、ここであらためてJOISについて簡単に紹介することにいたしましょう。

JOIS（JICST On-line Information System）は特殊法人であるJICSTが開発し提供している文献情報検索システムです。サービス開始当初はJICST、MEDLINE、CA SEARCH等数種のデータベースが利用できるようにすぎませんでした。現在では別表のとおり自然科学分野をほぼ網羅する各種データベースが提供されています。

JICSTはJOISを提供すると同時に、別表のJICST系各種データベースも作成しています。これらデータベースの内容は抄録も含め日本語が用いられ、キーワードも日本語が利用できます。この中で、科学技術文献ファイルは日本および世界各国の主要な科学技術関係の文献（雑誌論文、会議録、技術レポート等）を収録対象にしています。日本国内で発表された文献を検索する場合、オンライン検索ではJICST系ファイルがほぼ唯一のデータベースであるといえます。

つぎに、DIALOGと比較してみますと、サービスされるデータベースの学問分野では、DIALOGが人文、社会、自然科学のあら

ゆる分野のデータベースを提供しているのに対し、JOISでは自然科学分野のものに限られています。データの蓄積の点でもいくぶんDIALOGの方がまさっています。料金の点ではファイル使用料は、最近の円高の影響でDIALOGの方が若干安くなりますが、回線使用料で約4倍の差ができてしまうため、ファイル使用料と回線使用料を加えた額では、平均するとJOISの方が安くつくようです。検索機能の点では両者それぞれ特色があり、いちがいに優劣はつけられません。

JOISで提供されている個々のデータベースの内容については別表をごらん下さい。この中でMEDLINEやCA SEARCH等の代表的なデータベースはこれまでにたびたびふれてきたことがありますので、ここでは最近追加されたデータベースの中から次の3種類をとりあげて紹介します。

○ NTIS 研究報告ファイル

米国商務省NTISが作成機関で、データベースは米国政府が後援している研究、開発、技術レポートおよび政府機関等の作成した分析結果から構成されています。米国の3つの主要政府機関であるエネルギー省（DOE）、国防総省（DOD）、航空宇宙局（NASA）および他の多くの機関の技術レポート等（ADレポート、PBレポートを含む）を収録しています。

○ JICST・医中誌国内医学文献ファイル

1981年よりJICSTが医学中央雑誌刊行会の協力により作成してきたJICST国内医学文献ファイルに、1983年よりコンピューター編集されるようになった医学中央雑誌のデータを加え、1986年10月にサービスを開始したファイルです。日本国内で発表される医学（基

礎、臨床とも)およびその関連領域の文献がほぼ網羅されています。

○ EMBASE

オランダの Excerpta Medica 社が作成、提供している医学薬学分野のデータベースで、この分野では MEDLINE (米国国立医学図書館作成) と肩を並べる世界的規模のものです。MEDLINE で収録対象とされている看護学、歯科学、心理学等の領域は通常除外されています。医薬品および関連化合物に関する記事の網羅的収集が特徴としてあげられています。

オンライン文献情報検索については、「館報」27号(1983年1月)に紹介記事がありま

すので参考にして下さい。なお、オンライン文献情報検索サービスは、本館では運用係(内線6142)が、蔵本分館では情報調査係(内線6520)が担当しています。ご質問等がありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

(運用係 村田 康彦)

JOIS 受付時間

- 本館 月～金 9時30分～11時
13時 ～16時30分
- 蔵本分館 月～金 9時 ～11時30分
13時 ～16時30分

(土曜日は受付休止)

別表 1

JOIS データベース一覧表

1987年4月現在

	ファイル名	収録期間	収録件数	対象分野	内容
J I C S T 系	JICST 科学技術 文献ファイル	1975年4月～現在	約54万件/年	科学技術全般	JICST 発行の「科学技術文献速報」に対応する文献情報。
	JICST・医中誌国内 医学文献ファイル	1981年4月～現在	約22万件/年	医学・生物科学	医学関連分野の国内誌を対象とする文献情報。
	JICST 科学技術 研究情報ファイル	1979年～現在	約3万件/年	科学技術全般	日本国内の公共試験研究機関約650機関の研究テーマ情報。
	JICST 公共資料 ファイル	1983年4月～現在	約4千件/年	科学技術全般	公共機関等で発行される不定期刊物をデータベース化したもの。
	JICST 科学技術 医学文献ファイル (英文)	1985年1月～現在	約16万件/年	科学技術全般	医学を含む科学技術全般の国内誌を対象とする英文データベース。
国 内	日刊工業産業 情報ファイル	1983年4月～現在	約3万件/年	科学技術全般	日刊工業新聞に掲載された新製品、新技術に関する新聞記事情報。
	食品産業 情報ファイル	1985年4月～現在	約4千件/年	食 品	食品産業センターが作成する食品産業に必要な実用的記事の文献情報。
	大阪市都市工学 情報ファイル	1970年～現在	約1千件/年	都 市 工 学	大阪市の蓄積した都市場に関する文献情報。
導 入 デ ィ タ ベ ィ ス	MEDLINE医学 文献ファイル	1972年1月～現在	約30万件/年	医 学・薬 学	米国国立医学図書館(NLM)発行の「Index Medicus」誌に対応する文献情報。
	CA SEARCH化学 文献ファイル	1977年1月～現在	約46万件/年	化学・化学工業	米国化学協会(CAS)発行の「Chem. Abst.」誌に対応する文献情報。
	TOXLINE毒性 文献ファイル	1977年1月～現在	約18万件/年	毒 物 学	「Index Medicus」, 「Chem. Abst.」などから毒物に関する情報を抜粋した文献情報。
	BIOSIS生物学 文献ファイル	1979年1月～現在	約44万件/年	生 物 学・ 生 物 科 学	米国 BioScience Information Service 発行の「Biological Abst.」と「BA/RRM」に対応する文献情報。

	ファイル名	収録期間	収録件数	対象分野	内容
導入データベース	CAB農学 文献ファイル	1979年1月～現在	約17万件/年	農学	英連邦農業機関(CAB)発行の抄録誌(29種)に対応する文献情報。
	COAL石炭 文献ファイル	1978年7月～現在	約1.5万件/年	石炭	国際エネルギー機関(IEA)TISの「COAL Abst.」誌に対応する文献情報。
	CANCERLIT がん文献ファイル	1963年1月～現在	約6万件/年	がん	米国国立がん研究所(NCI)の「Cancer Therapy Abst.」「Carcinogenesis Abst.」誌等に対応する文献情報。
	FSTA食品科学 技術文献ファイル	1981年1月～現在	約2万件/年	食品科学	国際機関(IFIS)の「Food Science and Technology Abst.」に対応する文献情報。
	INSPEC物理・ 電気文献ファイル	1981年1月～現在	約21万件/年	物理学・ 電気工学	英国(INSPEC)の「Science Abst.」誌の4編に対応する文献情報。
	NTIS研究 報告ファイル	1981年1月～現在	約7万件/年	自然科学・工学	米国商務省技術情報サービス局(NTIS)の「GRA&I」誌に対応する研究報告情報。
	INIS原子力 文献ファイル	1972年1月～現在	約9万件/年	原子力	国際原子力機関(IAEA)の「INIS Atomindex」誌に対応する文献情報。
	EMBASE医学 薬学文献ファイル	1980年1月～現在	約26万件/年	医学・薬学	オランダのExcerpta Medica 44誌と2つの索引誌に対応する文献情報。
	IRRD 道路文献ファイル	1981年1月～現在	約1.5万件/年	道路	IRRD加盟国(20か国)より提供される道路に関する情報をOECDでデータベース化した文献情報。

別表 2

JOIS 利用料金

データベース名	料 金	ファイル 接続料金	オンライン※ 回答出力料金 ヒットチャージ	オフライン料金		
				手配料金	回答出力料金 Aタイプ (抄録付)	Fタイプ (抄録無し)
JICST 科学技術文献ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
JICST 科学技術研究情報ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	33円/件	27円/件
JICST 科学技術用語ソーラスファイル	190円/分	—	—	—	—	—
JICST 資料所蔵目録ファイル	190円/分	—	—	—	—	—
JICST 医中誌国内医学文献ファイル	200円/分	20円/件	20円/件	500円/回	39円/件	27円/件
JICST 公共資料ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
JICST 科学技術医学文献ファイル(英文)	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	32円/件	32円/件
日刊工業産業情報ファイル	230円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
大阪市都市工学ファイル	200円/分	10円/件	10円/件	500円/回	35円/件	17円/件
食品産業情報ファイル	200円/分	10円/件	10円/件	500円/回	35円/件	17円/件
MEDLINE 医学文献ファイル	170円/分	15円/件	15円/件	500円/回	39円/件	29円/件
TOXLINE 毒性文献ファイル	383円/分	34円/件	34円/件	500円/回	63円/件	45円/件
CANCERLIT がん文献ファイル	208円/分	20円/件	20円/件	500円/回	50円/件	32円/件
MeSH 医学用語ファイル	170円/分	—	—	—	—	—
CA SEARCH 化学文献ファイル	328円/分	60円/件	60円/件	500円/回	—	77円/件
CA SEARCH 化合物ファイル	190円/分	—	—	—	—	—
BIOSIS 生物学文献ファイル	300円/分	40円/件	40円/件	500円/回	—	49円/件
CAB 農学文献ファイル	224円/分	59円/件	59円/件	500円/回	84円/件	66円/件
NTIS 研究報告ファイル	265円/分	50円/件	50円/件	500円/回	45円/件	27円/件
INSPEC 物理・電気文献ファイル	320円/分	63円/件	63円/件	500円/回	91円/件	73円/件
FSTA 食品科学技術文献ファイル	286円/分	35円/件	35円/件	500円/回	60円/件	42円/件
EMBASE 医学・薬学文献ファイル	317円/分	20円/件	20円/件	500円/回	38円/件	27円/件
MALIMET 用語ファイル	190円/分	—	—	—	—	—
COAL 石炭文献ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
INIS 原子力文献ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
IRRD 道路文献ファイル	190円/分	20円/件	20円/件	500円/回	45円/件	27円/件
研修ファイル**	50円/分	—	—	—	—	—

文部省大型コレクション

『労働関係等学位論文集』が受入されました。

このたび文部省から「昭和61年度特別図書購入費」の配分を受け、『労働関係等学位論文集』を購入しました。この資料は附属図書館本館3階研究雑誌閲覧室に排架しますので

御利用ください。

なお、この資料の利用の指針として、本学総合科学部山田教官に解説していただきましたので紹介しておきます。

『労働関係等学位論文集』について

山 田 桂 三

人間の労働は、人類の歴史同様きわめて古いものである。しかし、今日、われわれが用いている「労働」の概念は、歴史的尺度ではかれはむしろ新しいものである。また、今日、われわれが一般に資本主義社会における「労働」問題という言葉でとらえる問題領域はきわめて広範である。そのいくつかを（思いつくまま）列挙してみると、たとえば、労働時間問題、賃金問題、労働市場、労資（使）関係、労働経済、技術革新、婦人労働、パート・家内労働、中高年労働、労働災害、職業病・健康問題、労働者生活、労働者状態、労働者意識、労働運動、労働組合、団体交渉、争議行為、労働協約、就業規則、経営（人事）・労務管理、定年制、退職金、企業年金、企業内福利厚生、経営参加、労使協議制、社会政策、労働政策、雇用政策、賃金政策、労働（基準）行政、社会保障制度、労働運動史、ILO活動をはじめとする国際労働問題、等々枚挙にいとまがない。もっとも、これら「労働」問題のあらわれ方は、各国それぞれの歴史的発展段階ないし発展過程に応じて、また、それぞれの、社会的文化的諸条

件における差異に応じて、当然さまざまな姿であらわれはするが、他面、資本主義段階における「労働」問題という点では、国境を越えた共通の問題性を有することとなる。後者の面における諸問題に対する取組みは、ILOの活動を通してわれわれに示されるとおりである。

ところで、かかる資本主義における「労働」ないし労働問題を対象とする研究は、わが国においても、経済学、社会学、心理学、歴史学、あるいは政治学、法学、さらには医学、工学、その他さまざまな視角からのアプローチが展開されていることは周知の事柄である。そして、それらの研究成果は労働経済論、社会政策論、労働運動（史）論、労資（使）関係論、経営（人事）・労務管理論、労働法、社会福祉・社会保障論、人間工学ないし労働科学論等々の形で結実している。しかしながら、かかる新しい、広範な概念としての「労働」ないし労働問題が包摂する多面的内容を、統一的に説明できる理論はいまだ未確立であるといわざるをえない。これまで「労働」が人類の歴史に果してきた重要な役

割、とりわけ現代文明において果している役割を考えると、現代資本主義における「労働」問題の科学的研究は、重要な、今日的かつ将来的課題であるといえよう。また、このことは、まさに現代における「労働」問題の研究が、人文・社会科学および自然科学からする学際的総合的研究をますます必要とする分野であることをも意味するものといえよう。

この度、本学附属図書館に昭和61年度全国共同利用大型コレクションとして、『労働関係等・学位論文集』(Industrial Relations and Labor Management ; Dissertations Collection) が関係者の御尽力によって購入された。本コレクションは1974年から1982年までの「労働問題」に関するアメリカ主要各大学の学位論文集であり、収集タイトル総数は776点にのぼり、アメリカにおいて、「労働問題」研究が学際的総合的に営まれている様はこれら個々のタイトルを概観するだけでも明らかである。

ここで個々の論文タイトルおよびその内容を示すことはできないし、また、適当でもあるまい。ただ概略的にふれておくにとどめる。本コレクションは大別して、(1) Industrial Relations, (2) Labor Economics, (3) Labor Managementの三分野からなるものである。そしてこれを、さらに主たるテーマ毎

にグループ分けすれば、① Historical Aspects, ② Law and Legislation, ③ Collective Bargaining, ④ Dispute Resolution, ⑤ Labor-Management Relations (労務管理, 安全衛生および健康, マンパワー・プラン等), ⑥ Compensation, ⑦ International Industrial Relations, ⑧ Political Economy等に関するものに分たれる。

本コレクションのもつ意義は、今日のいわゆる「病めるアメリカ」が抱える経済問題(いわゆるトリレンマ現象)、労働問題の(比較)制度論的研究に資すること、あるいは今日のアメリカの労働問題研究の関心の所在、実態、方向性等の一端を知るための貴重な手がかりとなること、さらには先進資本主義国の中で最も労使関係が安定している(といわれる)、「豊かさ」の中にある(といわれる)わが国のそれほど遠くないであろう明日の労働問題(「病める日本」の労働問題)を考える上で、貴重な示唆ないし問題点を提供するものであること、等に求められよう。なお、本コレクションは、中・四国はもとより全国各国立大学図書館では本学が最初に収蔵するものであり、この意味で、学内のみならず全国の研究者にとっての共通財産として、今後大きく広く利用、活用されることが望まれるのである。(総合科学部助教授・労働法)

本学教官著作寄贈図書

(昭和61年12月～昭和62年5月受入分)

(本館)

著者	書名	出版	寄贈者
	37モダンアート展作品集1987		小林 孔

(分館)

著者	書名	出版	寄贈者
松本 圭蔵 編 徳島大学医学部 小児科学教室編	二次元脳電図の臨床 宮尾益英教授退官記念業績集	にゅーろん社 徳島大学医学部 小児科学教室	松本 圭蔵 徳島大学医学部 小児科学教室

昭和61年度 図書館統計

(昭和62年3月31日現在)

蔵書数	図 書			雑		誌
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
本 館	274,911(冊)	102,350(冊)	377,261(冊)	5,306(種)	2,184(種)	7,490(種)
蔵本分館	75,006	72,771	147,777	2,452	2,569	5,021
計	349,917	175,121	525,038	7,758	4,753	12,511

年間受入数	図 書			雑		誌
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
本 館	9,035(冊)	4,112(冊)	13,147(冊)	3,076(冊)	1,332(冊)	4,408(冊)
蔵本分館	1,990	2,581	4,571	860	831	1,691
計	11,025	6,693	17,718	3,936	2,163	6,099

		本 館	蔵本分館	計
利 用 人 員	教 職 員	7,515 (人)	36,006 (人)	43,521 (人)
	学 生	187,957	102,999	290,956
	そ の 他	385	560	945
	計	195,857	139,565	335,422

		本 館	蔵本分館	計
貸 出 冊 数	教 職 員	20,391 (冊)	26,859 (冊)	47,250 (冊)
	学 生	39,222	30,806	70,028
	そ の 他	—	—	—
	計	59,613	57,665	117,278

		本 館	蔵本分館	計
視 聴 覚	教 職 員	327 (人)	66 (人)	393 (人)
	学 生	2,970	159	3,129
	そ の 他	59	0	59
	計	3,356	225	3,581

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		件 数	枚 数	件 数	枚 数	件 数	枚 数
文 献 複 写	教 職 員	997	70,040	9,013	108,085	10,010	178,125
	学 大 学 外 図 書 館	1,595	11,638	2,595	16,273	4,190	27,911
	そ の 他	50	703	276	4,903	326	5,606
	計	2,642	82,381	11,884	129,261	14,526	211,642

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
相 互 利 用	教 職 員	687	1,806	987	1,976	1,674	3,782
	学 生	165	536	272	468	437	1,004
	そ の 他	865	1,368	1,714	3,133	2,579	4,501
	計	1,717	3,710	2,973	5,577	4,690	9,287

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
参 考 調 査	教 職 員	1,093	1,273	1,608	2,409	2,701	3,682
	学 生	1,528	1,814	834	1,046	2,362	2,860
	そ の 他	180	235	1,794	3,228	1,974	3,463
	計	2,801	3,322	4,236	6,683	7,037	10,005

		本 館		蔵 本 分 館		計	
		人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数
情 報 検 索	人 数	62		117		179	
	件 数		123		217		340

【附属図書館運営委員会委員名簿】

(昭和62.5.1現在)

所 属	氏 名	任 期	所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	川田十三夫	60.8.1~62.7.31	歯学部教授	桂 茂	61.4.1~63.3.31
蔵本分館長	塚谷 博昭	61.4.1~63.3.31	薬学部教授	寺田 弘	61.3.1~63.2.29
総合科学部 教授	谷口 春雄 ⁽¹⁾	61.5.1~63.2.29	薬学部助教授	渋谷 雅之	61.4.1~63.3.31
総合科学部 教授	三木 正幸	61.5.1~63.3.31	工学部教授	鈴木 茂行 ⁽²⁾	61.3.1~63.2.29
医学部教授	宮本 博司 ⁽³⁾	61.4.1~63.3.31	工学部教授	森吉 孝 ⁽³⁾	61.4.1~63.3.31
医学部教授	井形 高明	61.4.1~63.3.31	教養部教授	戸田 宏文	61.3.1~63.2.29
歯学部教授	佐藤 光信 ⁽²⁾	61.4.1~63.3.31	教養部教授	服部 敏彦	62.4.1~64.3.31

- (1) 常三島地区世話人
(2) 業務電算化委員会委員・情報処理センター運営委員
(3) 館報編集委員

会 議

附属図書館運営委員会

(昭和61年度)

○第4回 昭和62年2月23日(月)

(於：蔵本分館会議室)

議 題

1. 昭和61年度学生用図書購入費(第2次分)配分(案)について
2. 昭和61年度外国雑誌購入費配分(案)について
3. 昭和61年度予算節約額について
(昭和62年度)

○第1回 昭和62年4月20日(月)

(於：本館会議室)

議 題

1. 附属図書館の本年度の運営方針について
2. 昭和63年度概算要求事項等について
3. 昭和62年度事業計画及び将来計画について
4. 附属図書館長候補者の選考について

人 事 異 動

退 職 小 野 和 夫 62.3.30

採 用 大 河 聡 62.4.1

夏季休業期間中の利用について(お知らせ)

附属図書館では、学生夏季休業期間中(7月11日(土)～9月10日(木))次のとおり取扱いをします。

○本 館

1. 開館時間

月曜日から金曜日まで……

午前9時から午後5時まで

土曜日…午前9時から午後0時30分まで

2. 貸出期限の延長

7月1日(木)から9月1日(火)までの学生の貸出については、貸出期限を9月11日(金)まで延長します。

3. 学外図書館の利用

帰省等のため、他の大学図書館利用希望者は、7月4日(土)までに運用係まで申し出てください。紹介状を発行します。

○蔵本分館

1. 貸出期限の延長

夏季休業期間中でも特別な貸出期限の延長は行いません。ただし、現行の貸出期限を延長すれば、下記の期間利用できます。

- | | | |
|--------------|-------|----------|
| (1) 図 書 | 最長期間 | 19日間 |
| (2) 雑 誌 | " | 9日間 |
| (3) " (学部学生) | " | 3日間 |
| (4) 最新着雑誌 | については | 延長できません。 |

なお、帰省等で期限日になった場合でもただちに返納をお願いします。

もし、期限超過になれば延滞日数だけ貸出ができなくなりますので充分注意してください。

2. 開館時間については本館と同じ。

目 次

自由意志の問題	
—カントとハルトマンを中心に—	1
ポ ス ト ン	3
JOISの利用について	5
「労働問題等学位論文」について	8

本学教官著作寄贈図書	9
昭和61年度図書館利用統計	10
会 議	12
人 事 移 動	12
夏季休業期間中の 利用について(お知らせ)	12

編集：発行

(〒770)

徳島大学附属図書館

徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)23-2310 内線(6111)